出来形管理基準及び規格値

（別表－１）　　出来形の規格値及び施工管理基準

工　種	項　目	規格値（㎜）	施工管	
			測定基準	結果表によるもの（設計値、実測値差を記入）
浚渫工（土砂）	水深（底面）	所定の区域が所定の水深及び斜面勾配以上の水深	測線､測点間隔20m以下とし、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。	
	水深（法面）			
浚渫工（岩盤）	水深（底面）	所定の区域が所定の水深及び斜面勾配以上の水深	測線､測点間隔10m以下とし、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。	
	水深（法面）			
置換工 載荷工	延長	＋規定しない －0		
	天端高	±500	陸上部 測線間隔 20m以下 測点間隔 10m以下 水中部 測線間隔 20m以下 測点間隔 20m以下	
	天端幅 法面勾配			
敷　　砂 砕石マット	延長	＋規定しない －0		
	天端高	±300	陸上部 測線間隔 20m以下 測点間隔 10m以下 水中部 測線間隔 20m以下 測点間隔 20m以下	
	天端幅 法面勾配			
サンドコンパクションパイル サンドドレーン ペーパードレーン 砕石ドレーン	位置	±100㎜	移動毎及び監督職員の指示による。	
	天端高	＋規定しない －0	砂杭全数	打込記録紙に深度を記入する。管理表にまとめる。
	先端深度	＋0 －規定しない		
	砂の投入量		砂杭全数	打込記録紙に砂の圧入量を記入する。
	盛上り量			
深層混合処理	位置		改良杭全数	
	鉛直度、接合		改良杭全数 深度方向に２～５ｍ程度毎に測定（引き抜きと貫入時）	改良杭先端部の軌跡図を作成する。
	天端高	＋規定しない －0	改良杭全数	打込記録紙または打込記録データに天端高、先端深度を記入する。
	先端深度	＋0		

		－規定しない		

理　基　準		摘　　要
設計図に実測値を朱書するもの	測定単位（㎜）	
実測値を平面図に記入する。	100	測量方法は、測量調査仕様書水路測量と同様の方式とする。
実測値を平面図に記入する。	100	測量方法は、測量調査仕様書水路測量と同様の方式とする。
実測値を平面図に記入する。	100	
実測値（天端高、法肩、法尻、天端幅、及び法勾配）を平面図または断面図に記入する。	天端幅　100 天端高 陸上部　10 水中部　100	
実測値を平面図に記入する。	100	
実測値（天端高、法肩、法尻、天端幅、及び法勾配）を平面図または断面図に記入する。	天端幅　100 天端高 陸上部　10 水中部　100	
実測値を平面図に記入する。	10	自動位置決め装備を使用している場合その作動状況が確認されていれば不要
	100	
	0.1m^3	ペーパードレーンの場合は、ペーパー等の打込量とする。
平面図に記入する。	100	
実測値を平面図に記入する。	10	自動位置決め装備を使用している場合その作動状況が確認されていれば不要
	1分または10㎜	

	10	深度計、ワイヤー繰出長さ、潮位計、乾舷及び処理機等により確認

工　種	項　目	規格値 (㎜)	施　工　管	
			測定基準	結果表によるもの (設計値、実測値差を記入)
深層混合処理	固化材吐出量		改良杭全数	打込記録紙または打込記録データに天端高、先端深度を記入する。
	盛上り量			
ロッドコンパクション	位置	±100㎜	移動毎及び監督職員の指示による。	
	充填材の投入量			測定記録をまとめる。
	天端高	＋規定しない －0	全数	打込記録をまとめる。
	先端深度	＋0 －規定しない		
アスファルトマット 摩擦増大用マット	敷設位置	＋規定しない －100	始終点及び変化する箇所毎並びに及びに20mに１箇所以上	測定表にまとめる。 (付表様式－(27)参照)
	重ね幅	500 以上	１枚２点	測定表にまとめる。 (付表様式－(27)参照)
	延長	＋規定しない －100	マットの中心を区間毎及び全長	測定表にまとめる。 (付表様式－(27)参照)
帆布繊維マット	敷設位置	＋規定しない －100	始終点及び変化する箇所毎及びに20mに１箇所以上	測定表にまとめる。 (付表様式－(27)参照)
	重ね幅	500 以上	１枚２点	測定表にまとめる。 (付表様式－(27)参照)
	延長	＋規定しない －100	マットの中心を区間毎及び全長	測定表にまとめる。 (付表様式－(27)参照)
合成樹脂系マット	敷設位置	＋規定しない －100	始終点及び変化する箇所毎及びに20mに１箇所以上	測定表にまとめる。 (付表様式－(27)参照)
	重ね幅	300 以上	1 枚に 2 点	測定表にまとめる。 (付表様式－(27)参照)
	延長	＋規定しない －100	マットの中心を区間毎及び全長	測定表にまとめる。 (付表様式－(27)参照)
基礎工(～) 床掘	水深（法面）	直角に外側２ｍ 内側 30 ㎝	法面は延長 10m以下ごとの法尻、法肩として必要に応じ中間点を加	

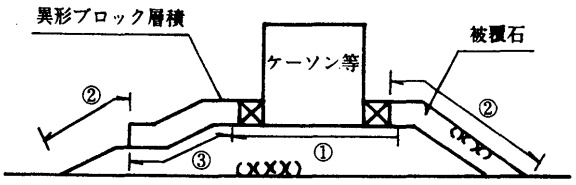
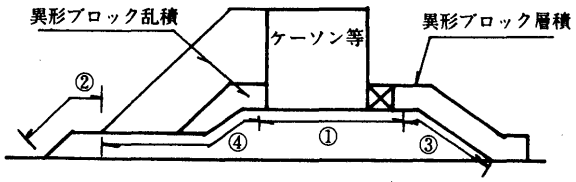
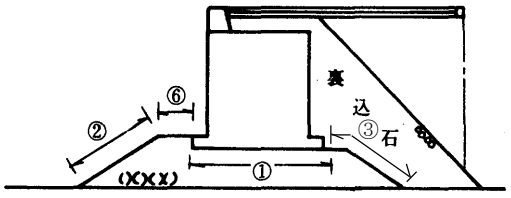
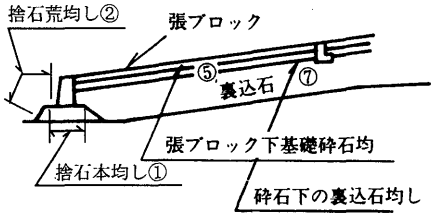
		水深（底面）	±300	える。底面は延長 10m 以下ごとの中心及び両端の３点その間隔 10m 以上の場合は更にその中間点を追加。	

理　基　準		摘　要
設計図に実測値を朱書するもの	測定単位（㎜）	
	1ℓまたは 1t	流量計等により固化材のｍ当りの吐出量を確認
実測値を平面図に記入する。	100	
実測値を平面図に記入する。	100	
	$1m^3$	
	100	
実測値を平面図に記入する。(付表様式－(28)参照)	100	
実測値を平面図に記入する。(付表様式－(28)参照)	10	
実測値を平面図に記入する。(付表様式－(28)参照)	100	
実測値を平面図に記入する。(付表様式－(28)参照)	100	
実測値を平面図に記入する。(付表様式－(28)参照)	10	
実測値を平面図に記入する。(付表様式－(28)参照)	100	
実測値を平面図に記入する。(付表様式－(28)参照)	100	
実測値を平面図に記入する。(付表様式－(28)参照)	10	
実測値を平面図に記入する。(付表様式－(28)参照)	100	

実測値を平面図に実測値及び許容範囲を断面図に記入する。	100	

工　種		項　目	規格値（㎜）	施工管	
				測定基準	結果表によるもの（設計値、実測値差を記入）
基礎工（均し）	①（捨石本均し）ケーソン、方塊、場所打、プレパックドコンクリート等の底面	基準高	±50	基準高の測線及び測点間隔は10m以下、幅は10m以下ごと、延長は両端の２点	
		幅	＋規定しない －0		
		延長	＋規定しない －0		
	②（捨石荒均し 捨石被覆均し）捨石露出面の均し及び被覆石露出面の均し	基準高	±500	基準高の測線及び測点間隔は10m以下、斜面は２測点以上、幅は10m以下ごと、延長は両端の２点	
		幅	＋規定しない －0		
		斜面	直角に±500		
		延長	＋規定しない －0		
	③（捨石荒均し）異形ブロックを層積する場合の均し裏込石の入らない場合でシートを敷設する場合の均し	基準高	±300	〃	
		幅	＋規定しない －0		
		斜面	直角に±300		
		延長	＋規定しない －0		
	④（捨石荒均し）異形ブロックを乱積する場合の均し	基準高	±500	〃	
		幅	＋規定しない －0		
		斜面	直角に±500		
		延長	＋規定しない －0		
	⑤（裏込石均し）船揚場張ブロック下の基礎砕石均し	基準高	±50	延長10m以下ごとに中心及び両端部の３点	
	⑥（捨石荒均し）けい船岸前面の均し	基準高	±100	基準高の測線及び測点間隔は10m以下、幅は10m以下ごと、延長は両端の２点	
		幅	＋規定しない －0		
		斜面	＋規定しない －0		
		延長	＋規定しない －0		

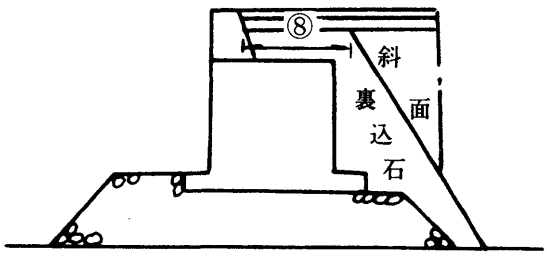
	⑦（裏込石均し） 船揚場砕石下の裏込均し	基準高	±100	延長10m以下ごとに中心及び両端部の３点	
基礎工	水中岩盤掘削（人力）	基準高	±50	基準高は延長５m以下ごとの中心及び両端の３点を標準とし、その間隔５mを超える場合には中間点を追加、幅は延長５m以下、延長は両端と中心の３点	
		幅	＋規定しない －0		
		延長	＋規定しない －0		

理　基　準		摘　要
設計図に実測値を朱書するもの	測定単位（㎜）	
実測値を平面図に記入する。 (付表様式－出来 4-1, 4-2)	10	例－１ 
実測値を平面図に記入する。 (付表様式－出来 4-1, 4-2)	100	例－２ 
実測値を平面図に記入する。 (付表様式－出来 4-1, 4-2)	100	
実測値を平面図に記入する。 (付表様式－出来 4-1, 4-2)	100	例－３  ③は、裏込石が入らない場合でシートを敷設する場合
実測値を平面図に記入する。 (付表様式－出来 4-1, 4-2)	10	
実測値を平面図に記入する。 (付表様式－出来 4-1, 4-2)	100	例－４ 

実測値を平面図に記入する。 (付表様式－出来 4-1, 4-2)	100	
実測値を平面図または横断図に記入する。	10	

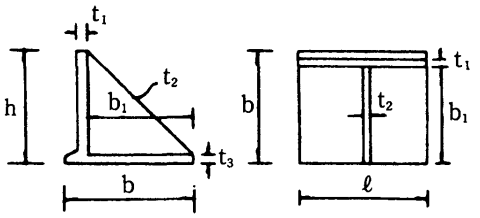
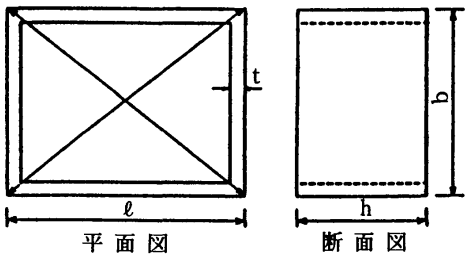
工　種		項　目	規格値 (㎜)	施　工　管	
				測定基準	結果表によるもの (設計値、実測値差を記入)
⑧裏込工		基準高	上面が路盤工と接する場合 ±200 その他の場合 ＋規定しない －200	基準高は延長 10m以下ごとの両端、幅は延長 10m以下斜面は延長 10m以下ごと横断歩向の間隔５m以下ごと延長は両端の２点	
		幅	＋規定しない －0		
		斜面	砂防シート敷設の場合 ±200 その他の場合 ＋規定しない －200		
		延長	＋規定しない －0		
本体工	鋼杭打込 コンクリート杭打込	打込記録		支持杭は全数、支持杭以外は 20 本に１本	打込記録にまとめる。 (付表様式－(31))
		杭頭中心位置	100 以内	全数	管理表をまとめる。
		基準高	±50		
		杭の傾斜	直杭２°以下 斜杭３°以下		
	鋼矢板打込	打込記録		鋼矢板は 40 枚に１枚 鋼管矢板は 20 枚に１枚	打込記録にまとめる
	鋼矢板打込 (鋼管矢板打込)	矢板壁延長	＋矢板１枚幅 －0	延長は中心を測定、法線に対する出入、傾斜、基準高は、鋼矢板は 20 枚ごと、鋼管矢板は 10 枚ごとまたは変化点、法線方向の傾斜は両端部	管理表にまとめる。
			鋼管矢板は特記仕様書による		
		矢板法線に対する出入	±100		
		矢板法線に対する傾斜	1/100		
		基準高	±100		
		矢板法線方向の傾斜	1/100		

		矢板継手部の離脱		全数	
	コンクリート矢板	矢板壁延長	＋矢板１枚幅 －0	鋼矢板に準ずる	(付表様式－(32)参照)
		矢板法線に対する出入	特記仕様書による		
		矢板法線に対する傾斜	特記仕様書による		
		基準高	±50		
		矢板法線方向の傾斜	2/100		
		矢板継手部の離脱		全数	

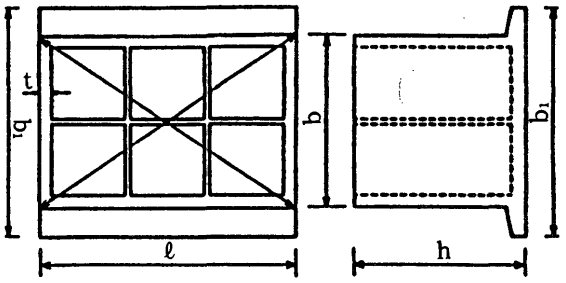
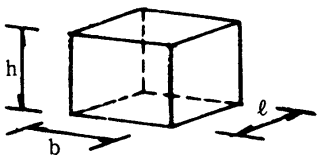
理　基　準		摘　　要
設計図に実測値を朱書するもの	測定単位（㎜）	
実測値を平面図に記入する。	10	例－５ 
実測値を平面図、断面図に記入する。	10㎜ １度	杭の切断、継足しがあった場合は切断、継足し前の天端高を点線で記入する。
	10	矢板の切断、継足しがあった場合は切断、継足し前の天端高を点線で記入する。 異形矢板を使用した場合、使用位置を記入。 タイロットなどの取付位置も記入。

実測値を平面図、断面図に記入する。	10	

工　種		項　目	規格値 (㎜)	施　工　管	
				測定基準	結果表によるもの (設計値、実測値差を記入)
本体工	腹起し	取付高さ		継手毎両端全数	管理表にまとめる
		継手位置、ボルトの取付、矢板と腹起しの密着		全数	
	タイロッド取付	取付高さ及び水平度		締付後両端全数	管理表にまとめる
		矢板法線に対する取付角度及び取付間隔		締付後両端全数	管理表にまとめる
		取付状況	定着ナットの締付けにより、ねじ山が3つ山以上突出していること、ターンバックルのねじ込み長さが定着ナットの高さ以上	全数	
	タイワイヤー取付	取付高さ		締付後両端全数	管理表にまとめる
		矢板法線に対する取付角度及び取付間隔		締付後両端全数	管理表にまとめる
		取付状況	定着ナットの締付けにより、ねじ山が3つ山以上突出していること	全数	
	Ｌ型ブロック製作	高さ　(h)	＋20 －10	高さは前面両端、版底の厚さ(t_3)四隅扶壁の厚さ(t_2)は注意点２ヵ所以上、前壁の幅は天端と下端、前壁の厚さ(t_1)は天端と下端	結果表にまとめる (付表様式－(35)参照)
		幅　(b)(b_1)	＋20 －10		
		長さ　(ℓ)	＋20 －10		
		壁厚　(t_1 t_2 t_3)	±10		
	Ｌ型ブロック据付	隣接目地間隔	50以内	目地間隔は天端と下端、法線方向の出入は各Ｌ型ブロックの天端前面の両端	管理表にまとめる
		法線方向の出入	±50		
	セルラーブロック製作	高さ　(h)	＋20 －10	高さはセルラーブロックの四隅、幅及び長さは天端及び下端、壁厚は天端の壁厚とする。 セルラーブロック１函ごとに測定する。	結果表にまとめる (付表様式－(35)参照)
		幅　(b)	＋20 －10		
		長さ　(ℓ)	＋20 －10		
		壁厚　(t)	±10		
		対角線			

理　基　準		摘　　要
設計図に実測値を朱書するもの	測定単位（㎜）	
	10	
	10	
	10	
		定着ナットの締付、ターンバックルのねじ込み長さ、リングジョイントへの埋込、タイロッドねじ部の損傷、支保材の天端高さ
	10	
	10	
		定着ナットの締付、定着具端部栓の取付け、トランペットシースの取付け、タイワイヤーねじ部の損傷
	10	
	10	据付時の天端高を各Ｌ型ブロック天端画面の両端を測定すること、その結果は、結果表などにより整理する。延長は全数量据付後に測定し平面図に記入し整理する。
	10	

工種		項目	規格値（㎜）	施工管 測定基準	施工管 結果表によるもの（設計値、実測値差を記入）
本体工	ケーソン製作	摩擦増大用マット敷設位置	特記仕様書による	始・終端及び変化する箇所毎	結果表にまとめる（付表様式－(33)参照）
		高さ (h)	＋30 －10	完成時、四隅	
		幅 (b)(b_1)	＋30 －10	各層完成時、中央部及び底版と天端は両端	
		長さ（ℓ）	＋30 －10	各層完成時、中央部及び底版と天端は両端	
		底版厚さ	＋30 －10	底版完成時、各室中間部１箇所	
		フーチング高さ	＋30 －10	底版完成時、四隅	
		壁厚 (t)	±10	各層完成時、各室中間部１箇所	
		対角線	±50	底版完成時及び完成時	
		バラスト	砕石・砂 ±100 コンクリート±50	各室中央部１箇所	
		吊筋位置及び高さ			
	ケーソン据付 2,000t 以上	隣接目地間隔	防波堤 300 以内 岸壁 200 以内	目地間隔は天端の２箇所、法線の出入は各ケーソンごとに法線に対して両端	結果表にまとめる（付表様式－(34)参照）
		法線方向の出入	防波堤 ±300 岸壁 ±150		
	ケーソン据付 2,000t 未満	隣接目地間隔	防波堤 200 以内 岸壁 100 以内		
		法線方向の出入	防波堤 ±200 岸壁 ±100		
	セルラーブロック据付	隣接目地間隔	50 以内	目地間隔は天端の両端、法線の出入は各セルラーブロックごとに法線に対して両端	管理表にまとめる。
		法線方向の出入	±50		
	方塊・直立消波ブロック製作	高さ (h)	＋20 －10	長さ及び幅は天端及び下端、高さは四隅方塊１個ごとに測定	結果表にまとめる。
		幅 (b)	＋20 －10		
		長さ (t)	＋20 －10		
	方塊・直立消波ブロック据付	隣接目地間隔	30 以内	目地間隔は天端の両端、法線の出入は各方塊の中心線の両端	結果表にまとめる。
		法線方向の出入	±50		

理　基　準		摘　　要
設計図に実測値を朱書するもの	測定単位（㎜）	
	10	 平 面 図　　断 面 図
	10	据付時の天端高を各ケーソンの四隅を測定すること。その結果は結果表などにより整理する。 延長は、当該年度のケーソン全函数据付後に両端の 2 点を測定し、平面図に記入し整理する。
	10	据付時の天端高は各セルラーブロックの四隅を測定すること、その結果は結果表等により整理する。 延長は、当該年度のセルラーブロック全函数据付後に両端の 2 点を測定し平面図に記入する。
	10	根固方塊も含む 
	10	据付時の天端高を各方塊の四隅を測定すること。その結果は結果表等により整理する。 延長は当該年度の方塊全個数据付後に両端の 2 点を測定し平面図に記入し整理する。

工種			項目		規格値（㎜）	施工管 測定基準	施工管 結果表によるもの（設計値、実測値差を記入）
本体工	プレキャストコンクリート	防波堤ドコンクリート	基準高		＋50 －20	基準高は延長５ｍごとの両端（幅が５ｍ以上の場合はその中間を追加）、幅は延長５ｍごとまたは１打設ごと、法線方向の出入は延長５ｍごと、または１打設ごとの中心線、延長は天端の中心線及び両側面	管理表にまとめる。
			幅		±30		
			法線方向の出入		±200		
			延長		＋規定しない －0		
		係船岸	基準高		＋50 －20		
			幅		±30		
			法線方向の出入		±50		
			延長		＋規定しない －0		
	中詰填充		基準高	砂・石材等	陸上 ± 50 水中 ±100	各室１ヵ所	管理表にまとめる。（付表様式－(36)参照）
				コンクリート	陸上 ± 30 水中 ± 50		
	蓋コンクリート		基準高		陸上 ± 30 水中 ± 50	各室１ヵ所	
	蓋ブロック据付						
上部工	上部場所打コンクリート	防波堤	基準高または厚さ（幅 10m 以下）		±20	基準高は１打設４箇所以上、ただしパラペットは２箇所以上 天端幅は１打設３箇所、法線方向出入は１打設２箇所 延長は法線上または監督員の指示	測定表にまとめる。（付表様式－(37)参照）
			基準高または厚さ（幅 10m 以上）		＋50 －20		
			幅（幅 10m 以下）		±30		
			幅（幅 10m 以上）		＋50 －30		
			法線方向の出入（本体ケーソン式）		2,000t 未満 ±200 2,000t 以上 ±300		
			法線方向の出入（本体場所打式）		±50		
			延長		＋規定しない －0		
	上部場所打コンクリート	係船岸	基準高または厚さ		±20	基準高、天端幅は１打設３カ所 法線方向出入は１打設２カ所 延長は法線上または監督員の指示	
			幅		±20		
			法線方向の出入		±30		
			延長		＋規定しない －0		
路床工			基準高		＋30 －50	基準高は道路またはエプロンの中心及び両端部の３点を 40m につき１ヵ所、幅は 40m につき１ヵ所、延長は道路またはエプロンの中心及び両端	結果表にまとめる。
			幅		＋規定しない －50		
			延長		＋規定しない －0		

理　基　準		摘　　要
設計図に実測値を朱書するもの	測定単位（㎜）	
	10	係船岸の場合本体工を場所打コンクリートで施工する場合も適用
	10	セル構造物で中詰の締固めを行う場合は特記仕様書による。
	10	胸壁コンクリートも適用
	10	防舷材ベッド及び桟橋式上部についても同様とする。
	10	

工　種	項　目	規格値（㎜）				施　工　管	
		①個々の測定値（X）		②10 個の測定値の平均(X_{10})		測定基準	結果表によるもの（設計値、実測値差を記入）
		中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下		
下層路盤工	基準高	±40	±50	－	－	基準高は延長 40m毎に１箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定、厚さは各車線 200m毎に１箇所を掘り起して測定、幅は延長 80m毎に１箇所の割に測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる	結果表にまとめる。
	幅	－50		－	－		
	厚さ	－45		－15			
	延長	＋規定しない －0					
粒度調整路盤工	幅	－50		－	－	幅は延長 80m毎に１箇所の割とし、厚さは各車線 200m毎に１箇所を掘り起して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる	結果表にまとめる。
	厚さ	－25	－30	－8	－10		
	延長	＋規定しない －0					
加熱アスファルト安定処理路盤	幅	－50		－	－	幅は延長 80m毎に１箇所の割とし、厚さは 1,000 ㎡に１個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる	結果表にまとめる。
	厚さ	－15	－20	－5	－7		
	延長	＋規定しない －0					

理　基　準		摘　要
設計図に実測値を朱書するもの	測定単位（㎜）	
	基準高 10 幅　10 厚さ　1 延長　10	・工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の使用料が 3,000t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに 10 個の測定値の平均値（X_{10}）について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。
	幅　10 厚さ　1 延長　10	
	幅　10 厚さ　1 延長　10	・工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の総使用料が 3,000t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに 10 個の測定値の平均値（X_{10}）について満足しなければならない。ただし厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアーの採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷をあたえる恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。

工　種	項　目	規格値（㎜）				施　工　管	
		①個々の測定値（X）		②10個の測定値の平均（X_{10}）		測定基準	結果表によるもの（設計値、実測値差を記入）
		中規模以上	小規模以下	中規模以上			
コンクリート舗装工	幅	－25		－		厚さは各車線の中心付近で型枠据付後各車線200m毎に水糸、またはレベルにより１測線当たり横断方向に３箇所以上測定、幅は延長80m毎に１箇所の割りで測定、平坦性は各車線毎に版縁から１mの線上、全延長とする。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長80m以下の間隔で測定することができる	結果表にまとめる。
	厚さ	－10		－3.5			
	延長	＋規定しない －0					
	平坦性	コンクリートの硬化後、３mプロフィルメーターにより 機械舗装の場合２㎜以下 人力舗装の場合３㎜以下					
	目地段差	±２㎜				隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定	

工　種	項　目	規格値（㎜）				施　工　管	
		①個々の測定値（X）		②10個の測定値の平均（X_{10}）		測定基準	結果表によるもの（設計値、実測値差を記入）
		中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下		
アスファルト舗装工（基層工）	幅	-25		－	－	幅は、延長80m毎に１箇所の割とし、厚さは、1,000 ㎡に１個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長80m以下の間隔で測定することができる。	結果表にまとめる。
	厚さ	-9	-12	-3	-4		
	延長	＋規定しない －0					
アスファルト舗装工（表層工）	幅	-25		－	－	幅は、延長80m毎に１箇所の割とし、厚さは、1,000 ㎡に１個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長80m以下の間隔で測定することができる。	結果表にまとめる。
	厚さ	-7	-9	-2	-3		
	延長	＋規定しない －0					
	平坦性	３mプロフィルメーター （σ）2.4㎜以下 直読式（足付き） （σ）1.75㎜以下					

理　基　準		摘　　要
設計図に実測値を朱書するもの	測定単位（㎜）	
	幅　10 厚さ　1 延長　10 平坦性　1 目地段差 1	・工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 ㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量がおおよそ 500t 未満あるいは施工面積が 2,000 ㎡未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに 10 個の測定値の平均値（X_{10}）について満足しなければならない。 ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。

理　基　準		摘　　要
設計図に実測値を朱書するもの	測定単位（㎜）	
	幅　1 厚さ　1 延長　10	・工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の総使用料が 3,000t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに 10 個の測定値の平均値（X_{10}）について満足しなければならない。 ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアーの採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷をあたえる恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平担性の項目を省略することが出来る。
	幅　1 厚さ　1 延長　10 平坦性 1	

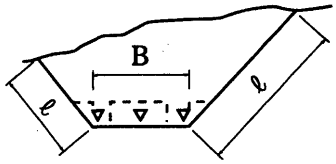
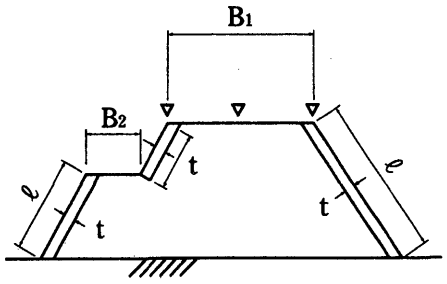
工　種	項　目	規格値（㎜）			施　工　管	
		①個々の測定値（X）		②10 個の測定値の平均(X_{10})	測定基準	結果表によるもの（設計値、実測値差を記入）
		中規模以上	小規模以下	中規模以上		
歩道路盤工	基準高	±50		－	基準高、幅は片側延長 40ｍごとに１ヵ所の割で測定、厚さは片側延長 200ｍごとに１ヵ所掘り起して測定、測定箇所は両端部２点で測定する	結果表に取りまとめる。
	幅	－100		－		
	厚さ	t＜15cm－30 t≧15cm－45		t＜15cm－10 t≧15cm－15		
	延長	＋規定しない －0				
歩道舗装工	幅	-25		－	幅は、片側延長 40ｍごとに１ヵ所の割で測定、厚さは片側延長 200ｍごとに１ヵ所コアーを採取して測定	結果表に取りまとめる。
	厚さ	-9		-3		
	延長	＋規定しない －0				

工　種		項　目	規格値（㎜）	施　工　管	
				測定基準	結果表によるもの（設計値、実測値差を記入）
埋立工	埋立	基準高	±200	測線、測点間隔 20m以下	
	裏埋立	基準高	±100	測線、測点間隔 20m以下	
		法面	特記仕様書による	測線、測点間隔 20m以下	

理　基　準		摘　要
設計図に実測値を朱書するもの	測定単位（㎜）	
	基準高 10 幅　10 厚さ　1 延長　10	・工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量がおおよそ500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに10個の測定値の平均値（X_{10}）について満足しなければならない。 ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアーの採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷をあたえる恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平担性の項目を省略することが出来る。
	幅　1 厚さ　1 延長　10	

理　基　準		摘　要
設計図に実測値を朱書するもの	測定単位（㎜）	
実測値を平面図に記入する。	10	
実測値を平面図に記入する。	陸上部 10 水中部 100	
実測値を平面図に記入する。	陸上部 10 水中部 100	

工　種		項　目	規格値 (㎜)	施　工　管	
				測定基準	結果表によるもの (設計値、実測値差を記入)
掘削工		基準高	±50	施工延長 40mにつき１ヵ所、延長40m以下のものは１施工ヵ所につき２ヵ所、基準高は道路中心線及び端部で測定する	基準高は結果表にまとめる。
		幅B	－100		
		法長ℓ＜５m	－200		
		法長ℓ≧５m	法長－４%		
盛土工 (路体・路床)		基準高	±50	施工延長 40mにつき１ヵ所、延長40m以下のものは１施工ヵ所につき２ヵ所、基準高は道路中心線及び端部で測定する。	基準高は結果表にまとめる。
		幅B，B1，B2	－100		
		法長ℓ＜５m	－100		
		法長ℓ≧５m	法長－２%		
栗石基礎 (切込材料基礎を含む)		幅	設計値以上	延長10mにつき１ヵ所	幅、厚さの実測値で図面表示のできないものを結果表に取りまとめる。
		厚さ	－30		
付属工	係船柱	基準高	±20	中心部、全数	管理表にまとめる (付表様式－(38)参照)
		岸壁前面に対する出入		全数	
		中心間隔		中心部、全数	
		基礎コンクリートの幅、長さ、高さ		全数	
	防舷材	基準高		中心部、全数	管理表にまとめる (付表様式－(39)参照)
		中心間隔			
	車止め	天端高		中心部、全数	測定表にまとめる。 (付表様式－(40)参照)
		岸壁前面に対する出入	±30	中心部、１点	
		取付間隔		上部工１打設に２箇所	

理　基　準		摘　要
設計図に実測値を朱書するもの	測定単位（㎜）	
幅・厚さの実測値を図面に記入する。	10	
幅・厚さの実測値を図面に記入する。	10	
	10	
	10	
	10	
	10	
	10	
	10	
	10	
	10	

工種		項目	規格値（㎜）	施工管	
				測定基準	結果表によるもの（設計値、実測値差を記入）
付属工	電気防食	取付位置	±20cm ※水深の変状等により図面通りに取付が困難な場合は別途協議とする	全数	測定表を作成し提出
		電位測定	飽和かんこう電極基準で−770㎷、海水塩化銀基準で−780㎷または、飽和硫酸銅電極基準で−850㎷ に達しなければならない		測定表を作成し提出
	アーク溶接	形状、寸法（のど厚、脚長、溶接長等）	特記仕様書による		管理表にまとめる。（付表４－７４）
		溶接部の強度（引張及び曲げ）	特記仕様書による	特記仕様書による	試験成績表にまとめる。
		非破壊試験	特記仕様書による	特記仕様書による	写真またはフィルムによる。
		ひずみ		全数	
		有害な欠陥の有無			
	水中溶接	形状、寸法（のど厚、脚長、溶接長等）	特記仕様書による		測定表にまとめる。
		外観		全数	
	ガス切断	形状寸法	特記仕様書による	全数	測定表にまとめる。
		外観		全数	
	水中切断	形状寸法	特記仕様書による	全数	測定表にまとめる。
		外観		全数	
植生工	張芝工 筋芝工 播種工 種子吹付工	延長	＋規定しない −0		管理表による。
		幅			
		材料の使用数量		全本数	使用数量表による。
		植生状況	特記仕様書による	特記仕様書による	
	植栽工	樹高	＋規定しない −0		結果表にまとめる。
		枝張り幅			
		幹周り			
		材料の使用数量		全本数	使用数量表による。
		植付け状況	特記仕様書による	全本数	植付数量等による。

理　基　準		摘　　要
設計図に実測値を朱書するもの	測定単位（㎜）	
	1cm	
	1mV	
	1	
	9.8Pa	鋼杭、鋼矢板等重要なものについて、JISZ3121,3131 等公的機関で試験
		異形矢板等
	1 （溶接長は 10）	
		潜水士による観察
	1	
	1	
		潜水士による観察
	100	
	100	
	10	

工種		項目	規格値 (㎜)	施　工　管	
				測定基準	結果表によるもの (設計値、実測値差を記入)
雑工	現場鋼材溶接	形状寸法(のど厚、脚長、溶接長等)	図面による	適宜	管理表にまとめる。 (付表４－７４)
		ひずみ		全数	観察結果を報告
		有害な欠陥の有無		適宜	観察結果を報告
	被覆溶接（水中)	形状寸法(のど厚、脚長、溶接長等)	図面による	適宜	管理表にまとめる。 (付表４－７４)
		外　観		全数	観察結果を報告
	スタッド溶接（水中)				

理　基　準		摘　要
設計図に実測値を朱書するもの	測定単位（㎜）	
	1	
		目視による観察
		目視による観察
	1 溶接長は 10	
		潜水士による観察
		被覆溶接（水中）を適用する